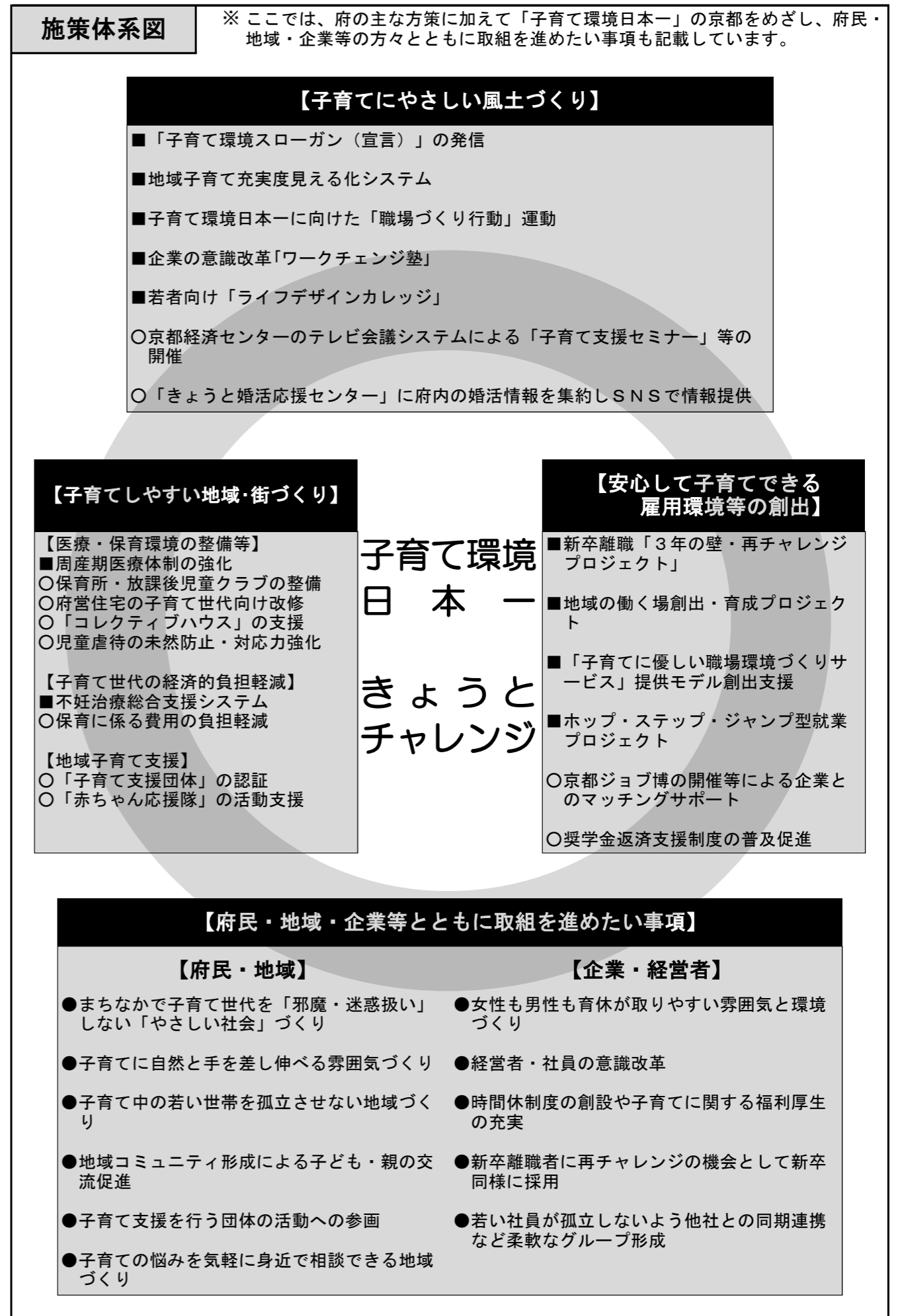


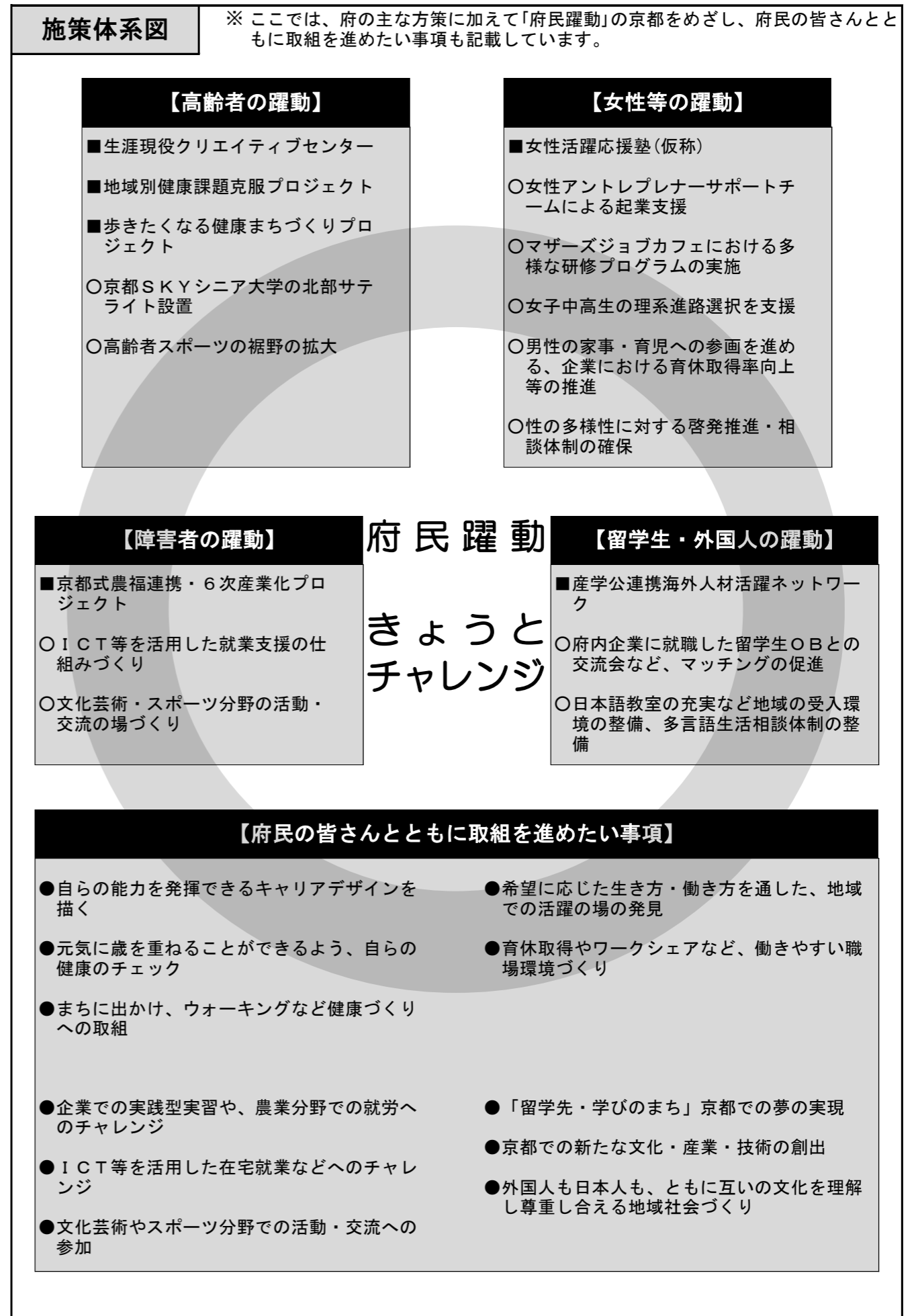
「子育て環境日本一」きょうとチャレンジ

基本方針	行政、府民、地域、企業などあらゆる主体の総力を結集し、「子育て」の視点から社会を変革する
到達目標 (数値目標の候補)	<ul style="list-style-type: none"> ■子育てに喜びや楽しみを感じている親の割合を●%にアップさせる(府民意識調査 2019年項目新設予定) ■「住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境」だと思える人の割合を●%にアップさせる(府民意識調査 2018年：78.9%) ■「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」を行った企業数年間●社以上に増加させる(2019年制度創設) ■子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合を●%にアップさせる(府民意識調査 2018年：83%)
主な重点・新規方策	<ul style="list-style-type: none"> ■「子育て環境スローガン(宣言)」の発信 京都で活躍する有識者等で構成する「子育て環境日本一Top会談(仮称)」を設置し、「子育て環境スローガン(宣言)」を発信します。 ■地域子育て充実度見える化システム 新たに地域の子育て環境の充実度を数値化する指標を構築し、それを通じて自治会等の各地域がコミュニティで考え、各地域で自発的に行動する意識を高めます。 ■子育て環境日本一に向けた「職場づくり行動」運動 「子育て企業サポートチーム」の企業訪問により、「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」の取組を進め、時間単位の年休取得、不妊治療に係る休暇、短時間勤務等の柔軟な制度導入と、男女がともに働きやすい職場環境づくりを進めます。 ■企業の意識改革「ワークチェンジ塾」 子育てにやさしい職場づくりを進めるため、経営者・男性社員などを対象にした意識改革の合同研修会を開催するとともに、男性社員の育児休業取得促進やワークライフバランスを考慮した人事評価制度の導入を支援します。 ■若者向け「ライフデザインカレッジ」 SNS等を活用し、結婚や子育てに関する支援制度等を発信するとともに、若者が、就学、仕事、結婚、子育てなどのトータルの人生設計を早期に考え、多様なライフデザインを自ら選択することができるよう、ワークショップや仕事と子育ての両立体験インターンシップなどの機会を提供します。 ■周産期医療体制の強化 府立医科大学附属病院においてNICU(新生児集中治療室)を増床するとともに、京都第一赤十字病院、京都大学医学部附属病院に加えて「総合周産期母子医療センター」に指定するなど、周産期医療ネットワークを拡充します。 ■不妊治療総合支援システム 男性の不妊治療に係る支援の拡充など不妊治療に係る経済的負担の軽減に加え、特定不妊治療に係る通院交通費の負担軽減制度を創設するとともに、企業等における不妊治療休暇制度の導入を支援します。 ■新卒離職「3年の壁・再チャレンジプロジェクト」 新卒3年以内の離職など早期離職者について、インターンシップの実施や研修会の開催など、ブランクを空けない就業復帰を支援することで「安定就業」を進めます。 ■地域の働く場創出・育成プロジェクト ▶ピッチ会やアイデアソンを通じたアクセラレーションプログラムの運営により、世界中から創業をめざす若者が集まる拠点エリアづくりを進めます。 ▶地域資源を生かした商品づくりや農家民宿・農家レストランなどの小さな仕事興しをはじめ、伝統産業の商品開発力向上に向けた「NEO KOUGEI」の製造など、地場産業の成長を支援します。 ▶子どもが元気に遊び回れる公園や子育て中の方がテレワークできる機能を有した「子育てに優しい企業団地」の整備を促進し、企業立地を進めます。 ■「子育てに優しい職場環境づくりサービス」提供モデル創出支援 子育てに優しい職場環境づくりを提供するビジネスモデルの創出を支援します。 ■ホップ・ステップ・ジャンプ型就業プロジェクト 女性のM字カーブを解消するため、子育て期からの仕事復帰を、「在宅ワーク」「共同サテライトオフィス勤務」など段階的に進めて企業への就職につなげる新しいビジネスモデルの創設を支援します。



「府民躍動」きょうとチャレンジ

基本方針	人生100年時代を見据え、府民の誰もが生きがいを感じることでできる共生社会づくりを進める
到達目標 (数値目標の候補)	<ul style="list-style-type: none"> ■「仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思う人の割合」を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：53%） ■「趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合」を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：59.1%） ■高齢者の有業率を●%にアップさせる（2017年：25.9%） ■「今の社会は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合」を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：57%）
主な重点・新規方策	<ul style="list-style-type: none"> ■生涯現役クリエイティブセンター 高齢者が年齢にかかわらず、その技術や能力を農業や商工業・福祉などの様々な分野で発揮できるよう、仕事や生活・健康増進に係る情報提供から相談・マッチング、産業界や大学等と連携した研修・活躍の場づくりまでトータルにコーディネートします。 ■地域別健康課題克服プロジェクト 3大生活習慣病である、がん・心疾患・脳血管疾患等を減少させるため、健診データやレセプトデータ等のビッグデータなどから地域の健康課題や個人の健康阻害要因を明らかにし、健康づくりから安心できる医療提供体制の構築まで、市町村等とともに対策を講じます。 ■歩きたくなる健康まちづくりプロジェクト 道路や公園・河川などで、楽しく歩きたくなるネットワークや健康プログラム等を市町村やNPO等と連携して提供します。 ■女性活躍応援塾(仮称) 地域で活動する団体・個人の発掘・育成を行うほか、活動情報を一元化して発信し、地域で活躍する女性を総合的に支援します。 ■京都式農福連携・6次産業化プロジェクト 障害者の就農・就労人材を育成するチャレンジ・アグリ認証の上級課程を構築するとともに、農福連携製品の6次産業化やブランド化を支援し、京都式農福連携事業を生かした農業分野での就労を促進します。 ■産学公連携海外人材活躍ネットワーク 研究者等の高度外国人材や介護・農業など特定技能者等の外国人、留学生が安心して活動し暮らせるための受入体制を構築し、海外ネットワークを生かした人材確保から、インターナショナルスクールの誘致や居住環境面の相談、地域の多文化共生まで、オール京都でサポートします。

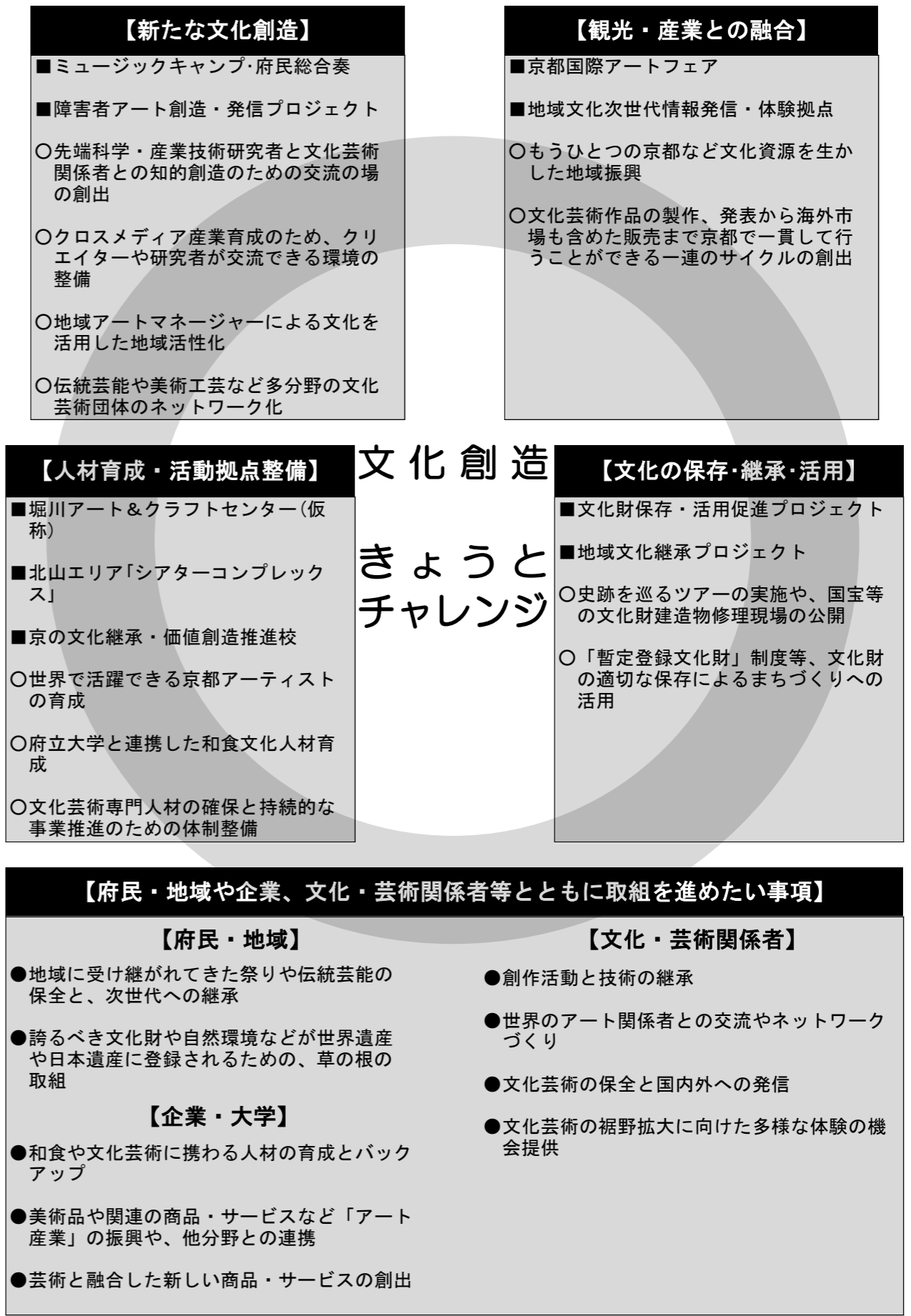


「文化創造」きょうとチャレンジ

基本方針	地域文化を大切にするとともに新しい文化が生まれ続け、地域に活力を生み出す社会を、文化庁が本格移転する京都から進める
到達目標 (数値目標の候補)	<ul style="list-style-type: none"> ■若手アーティスト（40歳以下）を対象とした府内のアートフェア等に参加するアーティスト数を●人に増加させる (2018年度：108人) ■府内のアートフェア等における販売額を●万円に増加させる (2018年度：2,515万円) ■文化・芸術に関わりを持つ（鑑賞・体験含む）人の割合を●%にアップさせる (2018年度京都府文化施策に関する府民意識調査：57.8%) ■「歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人」の割合を●%にアップさせる (府民意識調査 2018年：80.9%)
主な重点・新規方策	<ul style="list-style-type: none"> ■ミュージックキャンプ・府民総合奏 府内各地でミュージックキャンプを開催し、その成果を府立京都スタジアムで発表し、音楽の裾野を拡大します。 ■障害者アート創造・発信プロジェクト ▶文化芸術活動を行う障害者のアート作品を様々な機会を活用して販売したりポストカードとして商品化するなどの取組を進めます。 ▶障害者アートについて、新しい作家の発掘を含め、その創作活動とともにデジタルにより記録・保存し、広く国内外に発信します。 ▶きょうと障害者文化芸術推進機構と府内の芸術大学とのコラボレーションによる作品展等を開催します。 ■京都国際アートフェア 世界で活躍する一流アーティストの作品や京都と世界のクラフトを一堂に鑑賞、販売できる機会を提供し、日本の現代アートの価値向上やクラフトの世界展開を後押しします。 ■地域文化次世代情報発信・体験拠点 VR、AR等を活用した地域の文化資源を体験できる文化発信・観光まちづくりの拠点を整備します。 ■堀川アート&クラフトセンター(仮称) クオリティーの高い多様なイベントの展開により、アート&クラフトの創造・発信を強化します。 ■北山エリア「シアターコンプレックス」 旧総合資料館跡地を活用し、様々な規模の劇場等が集積したシアターコンプレックスを整備します。 ■京の文化継承・価値創造推進校 府立高校において、地域文化のフィールドワークや着物の着付けなどの体験活動に加え、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食について学ぶ授業、留学生との交流における宇治茶の呈茶、京野菜を使った新しいレシピの提案など、京都の本物の文化を次世代に継承し新たな価値を生み出す取組を進めます。 ■文化財保存・活用促進プロジェクト ▶社寺等の文化財において地域の特色を生かした文化に親しむ取組を支援するなど、文化財に親しむ機会を増やすことで、保存に対する認識も高まるという、文化財の「保存」と「活用」の好循環を生み出します。 ▶文化財の公開等を支援する、文化財の専門知識を有した人材を養成します。 ▶文化財の高精細画像化やVR・AR等の利用を図り、観光・教育資源として活用するほか、関西文化学術研究都市において、触れることのできるクローン文化財の展示・作製の拠点を整備し、アジアの文化財センターをめざします。 ■地域文化継承プロジェクト 文化庁と連携し、暮らしの中に息づく伝統文化や生活文化を守り伝えるため、地域の祭りや伝統芸能の担い手確保に向け、大学生など外部人材の活用の仕組みを創設します。

施策体系図

※ここでは、府の主な方策に加えて「文化創造」の京都をめざし、府民や企業、文化・芸術関係者等の方々とともに取組を進めたい事項も記載しています。



【新たな文化創造】

- ミュージックキャンプ・府民総合奏
- 障害者アート創造・発信プロジェクト
- 先端科学・産業技術研究者と文化芸術関係者との知的創造のための交流の場の創出
- クロスメディア産業育成のため、クリエイターや研究者が交流できる環境の整備
- 地域アートマネージャーによる文化を活用した地域活性化
- 伝統芸能や美術工芸など多分野の文化芸術団体のネットワーク化

【観光・産業との融合】

- 京都国際アートフェア
- 地域文化次世代情報発信・体験拠点
- もうひとつの京都など文化資源を生かした地域振興
- 文化芸術作品の製作、発表から海外市場も含めた販売まで京都で一貫して行うことができる一連のサイクルの創出

【人材育成・活動拠点整備】

- 堀川アート&クラフトセンター(仮称)
- 北山エリア「シアターコンプレックス」
- 京の文化継承・価値創造推進校
- 世界で活躍できる京都アーティストの育成
- 府立大学と連携した和食文化人材育成
- 文化芸術専門人材の確保と持続的な事業推進のための体制整備

文化創造 きょうと チャレンジ

【文化の保存・継承・活用】

- 文化財保存・活用促進プロジェクト
- 地域文化継承プロジェクト
- 史跡を巡るツアーの実施や、国宝等の文化財建造物修理現場の公開
- 「暫定登録文化財」制度等、文化財の適切な保存によるまちづくりへの活用

【府民・地域や企業、文化・芸術関係者等とともに取組を進めたい事項】

- | | |
|--|---|
| 【府民・地域】 <ul style="list-style-type: none"> ●地域に受け継がれてきた祭りや伝統芸能の保全と、次世代への継承 ●誇るべき文化財や自然環境などが世界遺産や日本遺産に登録されるための、草の根の取組 | 【文化・芸術関係者】 <ul style="list-style-type: none"> ●創作活動と技術の継承 ●世界のアート関係者との交流やネットワークづくり ●文化芸術の保全と国内外への発信 |
| 【企業・大学】 <ul style="list-style-type: none"> ●和食や文化芸術に携わる人材の育成とバックアップ ●美術品や関連の商品・サービスなど「アート産業」の振興や、他分野との連携 ●芸術と融合した新しい商品・サービスの創出 | |

「新産業創造・成長」きょうとチャレンジ

基本方針	企業のスタートアップから成長、継承まで、イノベーションが起り続ける最適な事業環境の創造を京都から進める
到達目標 (数値目標の候補)	<ul style="list-style-type: none"> ■開業率を●%にアップさせる (2016年：4.3%) ■従業者一人当たりの付加価値額（製造業）を●千円に増加させる (2016年：14,551千円) ■新たに海外展開に取り組んだ企業数を●社に増加させる (2018年：10社（海外ビジネスセンターを通じた）) ■農林水産業の産出額を●億円に増加させる (2017年：803億円)
主な重点・新規方策	<ul style="list-style-type: none"> ■起業するなら京都・プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ▶ スタートアップ企業が単独では実現困難なビジネスアイデアを実現するアクセラレーションプログラムの取組（世界中の有能な人材が京都に3ヶ月程度滞在し、ピッチ会やアイデアソンの実施により投資を集める）を推進し、世界中から有能な人材や企業が集う仕組みをつくります。 ▶ 多様なニーズに対応したインキュベート施設を供給します。 ▶ 創業支援、経営革新、販路開拓など、中小企業応援センターでトータルサポートします。 ▶ 高校生を対象にした「ベンチャー講座」を開設します。 ■京都VR・AR拠点 <p>今後、産業・教育分野において需要拡大が見込まれるVR・AR技術等について、企業活動の積極的な支援や「京都VR・AR拠点」の形成を行います。</p> ■シェアリングエコノミー促進プロジェクト <p>音楽等のサービスから自動車、衣服など、物の利用サービスへと広がりつつある、サブスクリプション(定額) ビジネス分野も見据えて、地域資源を生かした京都独自のビジネス展開を推進します。</p> ■ミニMICE誘致促進プロジェクト <p>学会等大規模なものだけでなく、会議や招聘旅行等小規模なものや、農家民宿の活用等地域資源を活用した多様なMICEを京都府域へ誘致します。</p> ■環境イノベーション創出プロジェクト <p>I o E (Internet of Energy) を利用したエネルギー需給の最適化や、産業・家庭における再生可能エネルギー由来水素の利用促進を図るとともに、気候変動に適応するための新たなビジネスを育成し、環境・経済・社会の好循環を生み出す取組を進めます。</p> ■オール京都「高度人材育成プログラム」 <p>新卒者から管理職、経営者までシームレスな研修をオール京都体制で実施するとともに、中小企業大学校と連携し、高度人材を育成します。</p> ■産学連携型学習「京都『結(ゆい)』コンソーシアム(仮称)」 <p>実社会という生きた教材から答えのない問いに挑む「課題解決型学習」等の機会の充実に向けて、企業や大学等とともに構成するコンソーシアムにより官民一体の教育を進めます。</p> ■MaaS・α促進プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ▶ MaaS (Mobility as a Service) など、新たなモビリティサービスの導入により、利用者ニーズに即したシームレスな移動を生み出すとともに、持続可能な地域交通の確立をめざします。 ▶ クラウドサービスの新たな展開について「Mobility(交通利用のスマート化)」だけでなく、「Communication(テレビ・Web会議)」や「Factory(工場)」などのあらゆる分野においても、こうしたサービスを活用し、新たなビジネスを創出します。 ■スマートアグリ・イノベーションセンター <p>地域の実情に応じてAIやIoTによるセンシングデータに基づく農業、漁業、養殖業及び家畜の生産管理や、森林の境界情報及び木材情報の見える化等の取組を本格化させるとともに、ロボットを活用した生産活動の自動化を進めます。</p>

施策体系図

※ここでは、府の主な方策に加えて「新産業創造・成長」の京都をめざし、企業・農家、府民・地域等の方々とともに取組を進めたい事項も記載しています。

【スタートアップ支援】

- 起業するなら京都・プロジェクト
 - 産業拠点のネットワーク化
 - ・京都経済センター
 - ・丹後・知恵のものづくりパーク
 - ・北部産業創造センター
 - ・京都府産業支援センター
 - ・けいはんなオープンイノベーションセンターKICK等
 - コンテンツ産業の育成と、観光など多様な分野とのコラボレーションによる新ビジネスの創出
 - 「農業ベンチャー・インキュベーションファーム」の開設

【成長支援・海外展開】

- 京都VR・AR拠点
- シェアリングエコノミー促進プロジェクト
- ミニMICE誘致促進プロジェクト
- 環境イノベーション創出プロジェクト
 - 「京都海外ビジネスセンター」を設立し、「Made in Kyoto」をコンセプトとしたブランドの構築
 - 「NEO KOUGEI」の展示・紹介及び商談機会の創出等を行うため織物関係事業者がめざす「TANGO OPEN CENTER(仮称)」の整備
 - 世界博物館会議(ICOM)京都大会を契機とした「KYOTO KOUGEI WEEK」の開催
 - 海外需要拡大に向けた「宇治茶プレミアムブランド戦略」の推進

【承継・人材育成】

- オール京都「高度人材育成プログラム」
- 産学連携型学習「京都『結(ゆい)』コンソーシアム(仮称)」
 - 中小企業の事業承継支援
 - 農業・林業大学校におけるAI、ロボット技術等を活用したカリキュラムの開設

新産業 創造・成長 きょうと チャレンジ

【AI・IoT等の活用促進】

- MaaS・α促進プロジェクト
- スマートアグリ・イノベーションセンター
 - 大学やAIベンチャー企業と連携した小規模事業者のAI・IoT活用支援
 - ロボット技術の研究開発(けいはんなロボット技術センター)

【企業・農家、府民・地域等とともに取組を進めたい事項】

【企業・農家】

- 異業種交流、産学公連携等を通じた商品開発や人づくり
- 後継者不足などにより事業継続が困難となる前の早めの準備による事業承継
- 農商工連携や6次産業化への取組

【府民・地域】

- 農家民宿の活用等地域資源を活用した多様なMICEにおける地域のおもてなし
- 多様な主体(行政と結びつける中間組織など)と連携した、環境・経済・社会の好循環への積極的な取組
- スマートシティ、スマート農山漁村づくりと連携した、次世代型地域づくり
- 京都発ベンチャーなどが生み出す新たな商品やサービスの積極的な利活用

「災害・犯罪等からの安心・安全」きょうとチャレンジ

基本方針	災害や犯罪等から府民の命と財産を守るため、A I等の活用によりハード・ソフト一体となった最先端の危機管理・安心安全体制を構築する
到達目標 (数値目標の候補)	<ul style="list-style-type: none"> ■災害時声掛け隊の人数を●人養成する(2019年創設) ■刑法犯認知件数を●件以下に減少させる(2018年：16,821件) ■交通事故死者数を●人以下に減少させる(2018年：52人)
主な重点・新規方策	<ul style="list-style-type: none"> ■危機管理センター設置等、防災対応力強化 危機管理センターを設置し、オペレーションルームの常設、国等の応援機関の専用スペース・リエゾン室の確保、4振興局へのサブセンターの設置等、京都市及び府内市町村対策本部とのネットワークを強化します。また、府・市町村の災害発生時対応業務について、図表等を用いて視覚的にも分かりやすく標準化するとともに、総合防災情報システムの整備、国のI S U T (災害時情報集約支援チーム)との連携体制の確立、備蓄管理システムの整備、防災情報の多言語発信、洪水氾濫状況等のリアルタイム配信など、最先端の危機管理体制を構築します。 ■逃げ遅れゼロ・プロジェクト 府内全ての自主防災組織における水害等避難行動タイムラインの策定と「避難時声掛け体制」を確保するとともに、災害危険情報の対象エリアを精緻化し、危険度の高いエリアに絞ってプッシュ配信することにより、情報の信頼性を向上させます。 ■A I活用「氾濫早期予測システム」 降雨情報(X-R a i n)とマイクロな地形情報、実績水位をもとに早いタイミングで中小河川の洪水を予測するシステムを開発し、防災情報に実装します。 ■防災基盤の整備 桂川や由良川の改修の促進、既存ダム等の洪水調節機能の最大化に取り組むとともに、老朽化したため池の適切な維持管理、防災重点ため池の浸水想定区域図の公表、ため池ハザードマップの作成など総合的な防災対策を講じます。 桂川右岸流域下水道事業「いろは呑龍トンネル」について、令和2(2020)年度の暫定供用・令和5(2023)年度の完成に向け、南幹線及び呑龍ポンプ場の整備を進めるとともに、流入量・貯留量の予測精度を上げ、より正確な浸水予測情報を発信し、貯留機能と流下機能を最大限に発揮させる運用を確立します。 ■A I活用「予測型犯罪防御システム」 犯罪の発生情報を集約、A I等を活用して情報の分析機能を強化するなど、予測型犯罪防御システムの高度化を図り、先制的なパトロールや効果的な情報発信等により、更なる犯罪抑止対策を推進します。 ■子どもの交通安全「安心空間」確保プロジェクト ▶ 通学路やお散歩コース等の園外活動における交通事故防止のため、路肩の拡幅やポールを設置するとともに、地域、保育所・認定こども園・幼稚園、学校、行政、警察等が連携して、子どもが安心して通行できる交通環境の整備を推進します。 ▶ 車両運転者への対策として、交通安全教室等あらゆる機会を活用するとともに、安全運転サポート車や急発進抑制装置装着の技術開発や普及を進めます。 ■G I S活用・交通事故防止対策 G I Sを活用した交通事故の発生原因等の多角的な分析に基づき、原因別に重点を絞った街頭活動の展開や自転車通行帯等の道路交通環境の整備等、地域の交通実態に即した交通事故防止対策を進めます。

